2025
NO.57

山本左近NEWS

令和7年 7月 2日　発行所：山本左近政策研究会
〒440-0806愛知県豊橋市八町通1丁目14-1　Tel. 0532-21-7008　Fax. 0532-21-7003

No.57

スポーツエンタメ×豊橋未来を考える講演会開催

6月29日、「スポーツ・エンタメ×豊橋の未来を考える」と題したシンポジウムを開催しました。暑い日にもかかわらず、大変多くの皆様にお集まりいただきました。改めて心から感謝申し上げます。

皆様のおかげで、豊橋の未来をともに考える未来志向のシンポジウムとなりました。今回は、このシンポジウムについて報告させていただきます。

シンポジウムは、2部構成。

【第一部】

各分野で活躍されている**最上紘太**様（スポーツソーシャルプロデューサー）、**井上純様**（音楽プロデューサー）、**小林佳雄様**（新アリーナを求める会Neo代表）からお話を伺いました。それぞれのテーマは次のとおりです。

「スポーツがつくる新しい社会のカタチ」（最上様）

「にぎわいの好循環　五千人規模会場のポテンシャル」（井上様）

「豊橋公園になぜ今アリーナが必要なのか。」（小林様）

【第二部】

第一部のお話をうけて、皆で対話を。私は、モデレーターを務めさせていただきました。

『現状維持は衰退の第一歩』

約60年前に新幹線が通り、豊橋駅ができ、人が集まり活気がある街に。しかし、今は衰退まっしぐら。県内人口第二位の都市から今や五位に。次世代のためにも、老朽化した豊橋公園東側エリアとアリーナを一体的に整備し、目的を持って豊橋に来てもらう仕掛け作りを。

『スポーツ・エンタメ×社会課題解決の時代』

近年、世界的にスポーツが「運動をする、健康のため」から、「社会のため」と役割を拡大している。女性アスリートの生理に関する課題解決に取り組む「1252プロジェクト」が、IOCが設立したアワードを**アジアで唯一となる受賞**。このプロジェクトは、女性アスリート問題に端を発し、生理に関する正しい知識の普及などを行うもの。このように、**スポーツを活用して社会課題を解決する事例が増えている**。

オリンピズム365サミットでは、スポーツ×社会変革の鍵として7つの指針が提示された。

『子どもたちにホンモノに触れる機会を』

ライブハウス（2000人）以上、スタジアム（10000人）未満のニーズ、すなわち**5000人規模のライブのニーズは確実にある**。アリーナができれば、スポーツやエンタメなどホンモノに触れる機会が増え、**子どもたちが夢を描き、挑戦するきっかけを与えることができる**。

また推し活ファンの経済波及効果にも言及。アリーナを引力として街ぐるみのチーム戦で取り組めば効果をさらに最大化できる。

【シンポジウムを終えて】

アリーナができたら、どのようにスポーツやエンタメが活用され、それがどのようにまちづくりに反映されるのか。豊橋や日本、ひいては全世界の様々な社会課題の解決にどのように寄与するのか。本シンポジウムで、スポーツ・文化・エンターテイメントの第一線を走る皆様からお話をうかがい、考えることができたのではないでしょうか。

アリーナは作ることが目的ではなく、手段の一つ。重要なことは、街のにぎわいを生み、豊橋の経済を活性化させること。さらには、経済的な効果にとどまらず、豊橋に新たな価値を生み出し、それが地域の皆さまの新しいアイデンティティの形成に繋がることも期待されています。

よりよく、活力ある、豊橋に生まれ変わるために。

住民投票は、市民の皆さん、一人一人が主役です。みんなで未来に責任を持つ住民投票。

みんなで考え、
みんなで未来を決める
みんなで動いて、
みんなで未来をつくる

住民投票は、参議院選挙と同日程。

投票期間は、7月3日～19日。投開票日は20日。7月4日から期日前投票も始まります。是非、期日前投票もご活用ください。

前衆議院議員

山本左近

山本左近の活動はこちら

H.P.

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼動を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官 兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

前衆議院議員 山本左近
資料解説

シンポジウム概要

改正スポーツ基本法が今年6月に成立
従来の3要素 → 新しい5要素に
観る・する・支える **＋集まる・つながる**

スポーツが"健康のため"から
"社会のため"へと役割を拡大

1252 プロジェクトとは

女子学生アスリートが抱える「生理×スポーツ」の課題と向き合う教育/情報発信プロジェクト。
1年間52週のうち、約12週は訪れる生理とそれに伴う体調の変化に対し、トップアスリート・医療・教育の専門家とともに向き合い、必要な情報を楽しく学ぶための様々なプログラムを提供。

IOC『Olympism365 イノベーションハブ』アワード受賞
（世界で約800プロジェクトのうち５つが選出され受賞。アジアでは唯一となる）

オリンピズム365は、スポーツを社会課題の解決に役立てる「世界規模の枠組み」として発展し、教育、雇用、公平性と包摂、安全なコミュニティづくりなど、様々なテーマのセッションが開催される。議論だけにとどまらず、実行可能な戦略を策定。世界でプロジェクトが展開されている。

提唱された「スポーツ×社会変革の７つのカギ」：主流化、資金調達モデルの革新、テクノロジー活用、安全＆インクルーシブ、環境配慮型スポーツ、成果の可視化と共有、新しい連携モデル

にぎわいの好循環　5,000人規模会場のポテンシャル

音楽アーティストから見た会場区分と収容人数

横浜スタジアム	約 72,000 人	スタジアム
東京ドーム	約 55,000 人	ドーム
IGアリーナ / 横浜アリーナ	約 17,000 人	
日本武道館	約 14,500 人	アリーナ
日本ガイシホール	約 12,000 人	
ゼビオアリーナ仙台	約 6,000 人	新サイズ
豊橋アリーナ(仮)	約 5,200 人	＝新ニーズ
アクトシティ浜松	約 2,000 人	ホール
Zepp DiverCity Tokyo	約 2,500 人	
Zepp Nagoya	約 1,800 人	ライブハウス
プラット豊橋	約 800 人	

音楽アーティストからみた会場区分と収容人数

これまでの日本は、2,000人のライブハウス以上、10,000人以上の大型アリーナ未満のサイズがなかった。このギャップを埋め、新しいニーズを生み出す新市場としての可能性。音楽利用での差別化ポイントなども共有。

またファンによる推し活にも注目。そもそも「楽しむため」だけにその場に来ている。美味しいものがあれば食べるし、理由があれば日帰り圏でも宿泊もする。
その体験が楽しければ、その会場を優先して応募する
繰り返すうちに、その場所を好きになる。
楽しむ場所＝アリーナを中心とする街ぐるみのチーム戦

シンポジスト

スポーツソーシャルプロデューサー
最上紘太様

シンポジスト

音楽プロデューサー
井上　純様

シンポジスト

新アリーナを求める
会Neo 代表
小林佳雄様

モデレーター

前衆議院議員
山本左近

山本左近 豊橋事務所　〒440-0806 愛知県豊橋市八町通1丁目14-1　TEL. 0532-21-7008　FAX. 0532-21-7003　info@sakonyamamoto.com

お名前、ご住所等のご確認のお願い
お名前やご住所に変更がありましたら、山本左近事務所までご一報ください。山本左近を応援してくださる皆さまに今後も情報をお届けできるよう努めて参りますので、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

討議資料